

文教厚生常任委員会行政視察概要

令和6年7月30日（火）
於 世田谷区教育会館
午後2時00分～午後3時35分

1 調査概要

「不登校児童生徒への支援策について」

世田谷区 教育委員会事務局
教育総合センター 教育相談課

不登校児童生徒数はコロナ禍以降全国的に増加しているが、世田谷区でも年々増加傾向にある。要因のひとつとして、コロナ禍で生活環境が変化し生活リズムが乱れやすい状況になったり、制限がある中で交友関係を築きにくくなった事などが考えられている。

世田谷区では、不登校の相談先として、総合教育相談ダイヤルやスクールカウンセラー、教育相談室、不登校支援窓口などがある。不登校支援窓口では、心理職11人、スクールソーシャルワーカー5人がチームを組んで支援に当たっており、不登校以外の相談も不登校の予防的観点から受け付けている。また、不登校保護者のつどいを毎月定期的で開催している。

不登校の未然防止及び早期対応として、別室登校（ほっとルーム）の設置を段階的に増やしており、現在は小中学校90校のうち60校に設置している。

心理的な理由などで学校に通うのは難しいが、同世代の子と関わりたいと思っている小中学生のための「ほっとスクール」が市内に3か所設置されている。個別学習への取り組みもしつつ、体験活動やスポーツなどを通して学校生活への復帰や自分らしい進路の実現を目指している。



令和4年度より開校している「不登校特例校分教室ねいろ（以下ねいろ）」は、在籍校には通えないが勉強したい、基礎学力をつけたい中学生のための学校で、卒業後は全員が高校進学を果たしている。教育課程に沿った授業を行う先生と、授業についていけない子をフォローする先生との2人体制で授業を行っている。「ねいろ」の教育目標は、基礎的・基本的な学力の向上および体力の充実、社会性の育成、基本的な生活習慣の確立であり、学校生活のリスタートを切れるのが「ねいろ」の特色となっている。

他に、オンラインによる支援を受けたい不登校の小中学生が、動画などで授業を受けることができる「ほっとルームせたがY a h！オンライン」を、(株)トライグループに委託して実施している。週3日開設されており、200人ほどの登録者のうち30～40人は毎回参加している。子ども同士のコミュニケーションを図ることができる居場所支援、複数参加による体験プログラム、子どもの様々な悩みに対応してくれる個別相談支援のほか、保護者も利用できるマンツーマンの個別相談支援もある。

2 主な質疑応答

問 スクールソーシャルワーカーはどのようなケースに関わっているのか。また、関わるきっかけは。

答 世田谷区では、スクールソーシャルワーカーを不登校支援窓口に配置し、児童生徒や保護者の相談対応のほか、必要に応じて家庭訪問の実施、学校および関係機関への連絡調整を行っている。

問 不登校支援窓口を開設した経緯と現状と課題は。

答 令和4年度、増え続ける不登校児童生徒に対応するため、不登校の課題の早期解決を目的として設置。関係機関との連携について、ケースごと担当者間の連絡調整に留まっており、組織レベルの連携には至っていないのが課題。

問 オンラインを活用した授業「ほっとルーム」は無料なのか。

答 区でやっている事業で、無料で実施している。

問 「ねいろ」から高校に進学した子が、その後通えているかの調査はしているのか。

答 厳密な調査はできていないが、報告などを聞くと、通えていない子も一部いるようだ。東京都のチャレンジスクール（不登校経験のある子などを受け入れている定時制・単位制の都立高校）には割と元気に通えている子が多いようだ。

問 「ねいろ」編入後に元の中学校に戻ることはできるのか。

答 戻ることはできない。約1か月の体験を経て元の学校から「ねいろ」に移籍する。学習意欲はあるものの、何らかの事情で元の学校に通えないが「ねいろ」なら通えるという子が多い。ひきこもりの子の場合、通うのが難しいため他の支援（ほっとスクールやオンラインのほっとルーム）での対応となる。

以上